



はじめに・計画範囲

○政府の「インフラ長寿命化基本計画」（平成25年11月インフラ老朽化対策の推進に関する関係府省庁連絡会議決定）に基づき、文部科学省が所管する施設の長寿命化に向けた各設置者における取組を推進するため、文部科学省として「文部科学省インフラ長寿命化計画（行動計画）」（平成27年3月）が示され、広島大学が管理する施設の維持管理等を着実に推進するための中長期的な取組の方向性を明らかにするため、平成28年度に「広島大学インフラ長寿命化計画（行動計画）」（以下「行動計画」という。）を策定した。今般、行動計画期間が終了することから、これまでの取組のフォローアップや長寿命化に向けた政府全体の方針等、また本学の「カーボンニュートラル×スマートキャンパス5.0宣言」を踏まえて、今後5年間における更なる長寿命化対策の取組を推進するため、これまでの行動計画について、見直しを行い改定する。

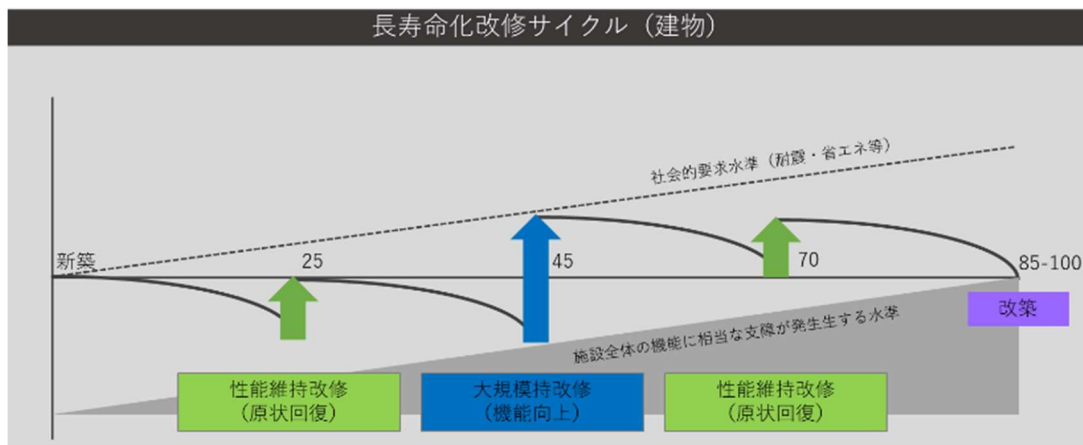
○対象施設 広島大学が所管・管理する施設

○対象期間 平成28年度－平成32年度（5か年）：前回計画期間
令和3年度－令和7年度（5か年）：今回計画期間

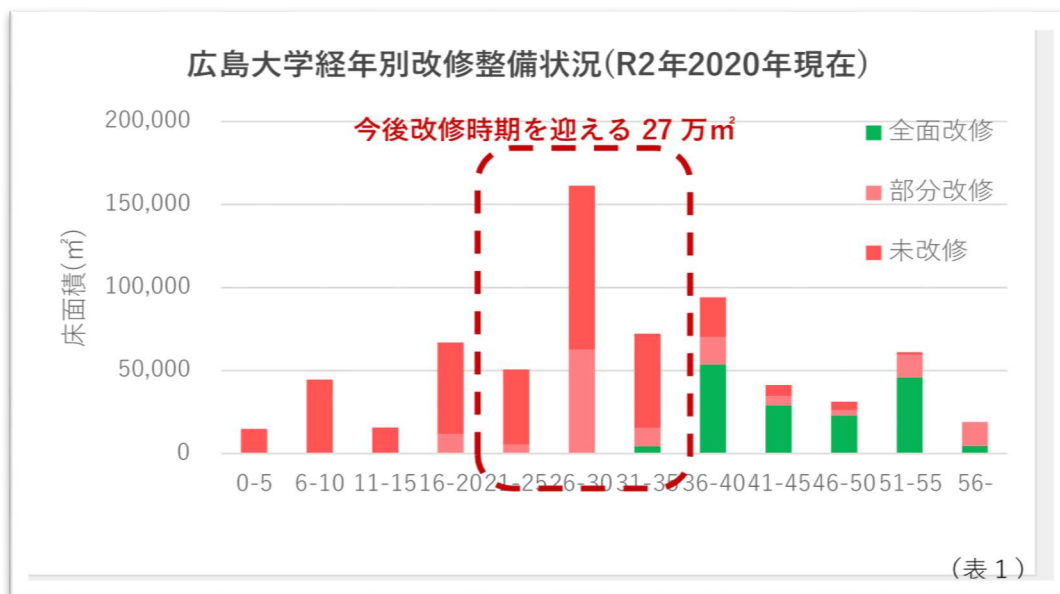
○目的 保有施設の整備水準と適正な維持管理
（既存施設の長寿命化と老朽施設の計画的効率的な再生整備・維持管理）

○インフラ長寿命化計画 大学全体の方針やキャンパスごとの運用方針などをもとに、建物・建築設備ごとの現状の劣化度や建物利用度・重要度を合わせた全体の整備計画

○基本的な考え方 予防保全を原則とし、**改修サイクル**を立てて計画的に整備を行う。
20年周期から25年周期への更なる長寿命化



○老朽化状況 前回計画(H28年)よりさらに経年し、より老朽化が進んでいる。



- 他大学との比較 国立大学(大規模13大学)内での比較 (保有面積と修繕費)
建物の経年評価は13大学中13位 (全国と比較しても経年が進んでいる)
建物面積あたり修繕費は13大学中10位 (コストが足りていない)
- 点検の課題 施設点検について点検・診断の全体把握とそのデータベースが必要
- 財源の課題 修繕・更新等の財源の課題。
前回計画以降で3.52億円/年の修繕費が費やされ、内予防保全は0.82億円/年程度。
予防保全のさらなる財源確保とコスト削減の計画が必要。

- 文部科学省 「コロナ禍を踏まえたキャンパスのあり方について」 (令和2年9月)
(コロナ禍を踏まえた教育研究・大学等施設の方向性、
新たな日常に対応した環境改善整備)
「第5次国立大学法人等施設整備5か年計画(令和3年-7年)」 (令和3年3月)
(イノベーションコモンズ、戦略的リノベーション、多様な財源の活用)
「文部科学省インフラ長寿命化(行動計画)令和3年」 (令和3年3月)
(予防保全、性能維持改修の制度活用、公的ストックの最適化)

- 広島大学 「SPLENDOR PLAN2017」 (平成29年)
(広島大学の新たな10年間のビジョン)
「広島大学FE・SDGsネットワーク拠点」 (平成30年)
(広島大学FE・SDGsネットワーク拠点の設置)
「カーボンニュートラル×スマートキャンパス5.0宣言」
(令和3年1月)
(より一層の施設の省エネ化・低炭素化、ZEB化の貢献)



整備計画の方向性

○整備手法 ・改修サイクルの見直し

(前計画：20年サイクル築後80年改築→今回：20-25年サイクル85-100年改築への転換)

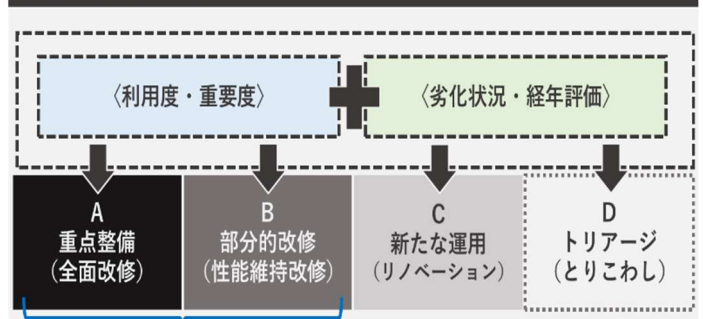
○整備計画 [分散化、平準化、パターン化、リノベ、トリアージ] による全体整備計画検討

部位別の改修サイクル

整備内容	経年	改修				改築
		0	20-25	45-49	70-74	
		新築	性能維持	性能維持向上	性能維持	
外壁・屋上防水		●	●	●		
内装		△	●	△		
電気配線・設備配管		△	●	△		
照明設備		△	●	△		
衛生設備		△	●	△		
個別式空調設備		△	●	△		
中央式空調設備		○	●	○		
空調ダクト			●			
昇降機設備		○	●	○		

● 全面改修または更新
○ オープンホール
△ 一部修繕または更新

建物別改修内容の検討 (イメージ)



パターン化

○整備順位 利用度・重要度や劣化状況によって建物ごとに点数化し、整備順位を設定する。

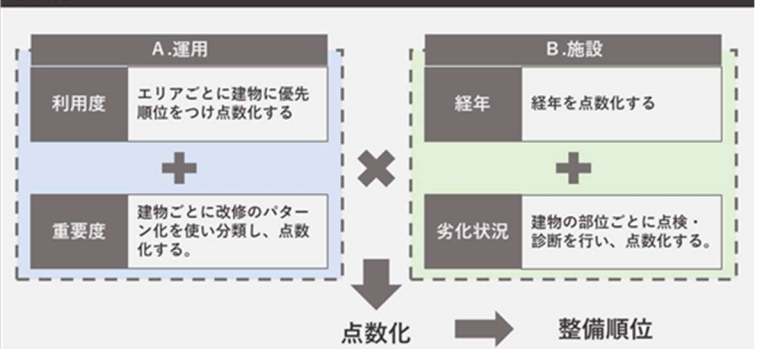
改修マトリクス (領域イメージ)

		(A運用)利用度・重要度【高】					
		10					
(B施設経年劣化【良好】)	B-2	B-1	A-2	A-1	(B施設経年劣化【劣化】)	0	100
	B-4	B-3	A-4	A-3			
	D-2	D-1	C-2	C-1			
	D-4	D-3	C-4	C-3			
		(A運用)利用度・重要度【低】					
		2					

優先順位④, ③, ②, ①, ③, ②, ①, ③, ②, ①, ③, ②, ①

運用見直し, とりこわし検討

点数化のイメージ



中長期的な修繕・更新等コストについて

○修繕・更新等に必要の費用は、個別施設計画を策定する中で明確化していく予定

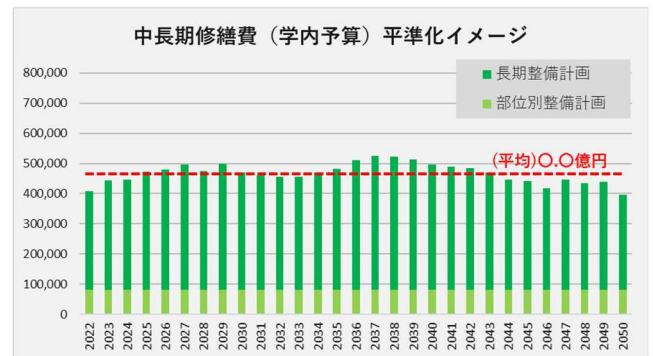
○財源の確保 文部科学省補助事業や学内の財源を安定的に確保する

○コストの平準化 安定的な財源確保のためにも整備計画の平準化を行う

財源構成イメージ



中長期修繕費 (学内予算) 平準化イメージ



フォローアップ

○PDCA サイクルによる適宜見直しを行う。

○社会情勢の変化、環境の変化によって適宜見直しを行う。